



<定点把握感染症>

疾患名	全国	山形県			山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積(県)
	第22週	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	第22週	第23週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(45)			(10)			(10)			(4)			(9)			(12)			
インフルエンザ	9 0.00																			66
小児科定点 (定点医療機関数)		(29)			(6)			(7)			(3)			(6)			(7)			
RSウイルス感染症	8046 2.56	208 7.17	176 6.07	▽	6 1.00	△	34 4.86	31 4.43	▽	4 1.33	2 0.67	▽	129 21.50	112 18.67	▽	41 5.86	25 3.57	▽	893	
咽頭結膜熱	1250 0.40	24 0.83	21 0.72	▽	4 0.67	3 0.50	▽	3 0.43	2 0.29	▽	1 0.33	1 0.33	▽	13 2.17	11 1.83	▽	3 0.43	4 0.57	▲	245
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1999 0.63	26 0.90	20 0.69	▼	4 0.67	6 1.00	△	9 1.29	5 0.71	▼				10 1.67	8 1.33	▼	3 0.43	1 0.14	▽	826
感染性胃腸炎	11217 3.56	52 1.79	60 2.07	△	20 3.33	17 2.83	▽	4 0.57	6 0.86	△	2 0.67	3 1.00	▲	21 3.50	26 4.33	△	5 0.71	8 1.14	△	1752
水痘	375 0.12	2 0.07	5 0.17	▲		2 0.33	△	2 0.29	1 0.14	▽					2 0.33	△				53
手足口病	239 0.08	2 0.07	5 0.17	▲		2 0.33	△	2 0.29	3 0.43	▲										17
伝染性紅斑	56 0.02	1 0.03		▽				1 0.14		▽										12
突発性発しん	1424 0.45	12 0.41	17 0.59	△	5 0.83	2 0.33	▽	2 0.29	4 0.57	▲		1 0.33	△	5 0.83	8 1.33	△		2 0.29	△	338
ヘルパンギーナ	288 0.09	1 0.03	5 0.17	▲					2 0.29	△				1 0.17	3 0.50	▲				17
流行性耳下腺炎	183 0.06	2 0.07	3 0.10	△		1 0.17	△	1 0.14	1 0.14								1 0.14	1 0.14		27
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(1)			(3)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	1 0.00																			0
流行性角結膜炎	129 0.19	1 0.13	4 0.50	▲		3 3.00	△					1 1.00	△				1 0.50		▽	24
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(2)			(2)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1 0.00																			1
クラミジア肺炎																				0
マイコプラズマ肺炎	20 0.04																			3
細菌性髄膜炎	8 0.02																			2
無菌性髄膜炎	6 0.01																			0

◎ : 警報レベル ○ : 注意報レベル

<全数把握感染症>

疾患名	報告数					備考
	山形市	村山	最上	置賜	庄内	
結核		1			1	
レジオネラ症				1		
侵襲性肺炎球菌感染症					1	ワクチン接種歴: 1回。
梅毒					1	※第22週 追加報告分。

<通信欄>

※新型コロナウイルス感染症情報について

新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システムの運用開始に伴い、新型コロナウイルス感染症は週報の対象外となりました。

山形県の新型コロナウイルス感染症に関する情報は、右記の「新型コロナウイルス感染症に関連するポータルサイト」をご覧ください。(QRコードを読みとるかPDFファイル上でクリックしてアクセスしてください。)



※警報・注意報の基準値

疾患名	警報レベル		注意報レベル
	開始	終息	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

※ウイルス分離・検出状況については、衛生研究所のHPをご覧ください。

※表中の数値 上段: 報告数 下段: 定点当たり報告数
※定点当たり報告数が、▲: 2週連続増加、△: 今週増加、▼: 2週連続減少、▽: 今週減少

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	合計
インフルエンザ	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									0
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	10	24	68	49	15	6	4								176
咽頭結膜熱		1	9	4	5	1	1								21
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3		4		4	2	2	2	2	1			20
感染性胃腸炎		6	9	6	2	4	3	6	2	2	4	12	4		60
水痘				1						1		3			5
手足口病			1	1	1		2								5
伝染性紅斑															0
突発性発しん		5	11	1											17
ヘルパンギーナ		1	2	1					1						5
流行性耳下腺炎						1			2						3

< 令和3年5月 月報 >

2021年6月16日 発行

疾患名	山形県		山形市保健所		村山保健所		最上保健所		置賜保健所		庄内保健所		累積(県)	
	4月	5月	4月	5月	4月	5月	4月	5月	4月	5月	4月	5月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(3)		(1)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	10	14	5	4		1	1	2	1	2	3	5	69
	定点当り	1.00	1.40	1.67	1.33		1.00	1.00	2.00	0.50	1.00	1.00	1.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	8	6	2	1			1	1	3	3	2	1	41
	定点当り	0.80	0.60	0.67	0.33			1.00	1.00	1.50	1.50	0.67	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	1	2	1							1		1	5
	定点当り	0.10	0.20	0.33							0.50		0.33	
淋菌感染症	報告数	4	3	3						1	1	2		11
	定点当り	0.40	0.30	1.00						0.50	0.33	0.67		
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(2)		(2)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	4	7	2	1				1		1	2	4	19
	定点当り	0.40	0.70	1.00	0.50				1.00		0.50	0.67	1.33	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	24	15	4	1	1	1			1		18	13	91
	定点当り	2.40	1.50	2.00	0.50	0.50				0.50		6.00	4.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数													0
	定点当り													

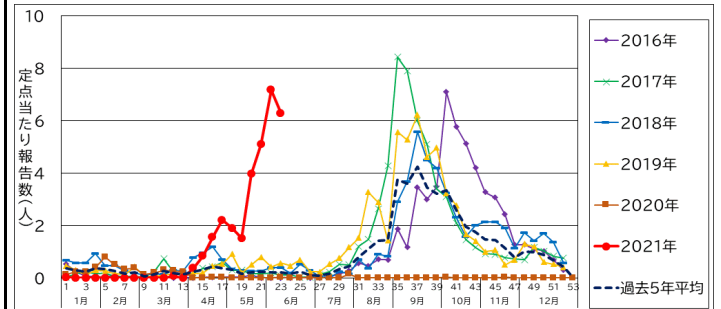
< トピックス >

RSウイルス感染症 情報

山形県のRSウイルス感染症の定点当たり報告数は、4週ぶりに前週より減少しました。しかし、置賜地区を中心に依然として報告数が多い状況が続いています。

※管轄保健所別のグラフは別紙(3ページ)に掲載しています。

< 過去5年のRSウイルス感染症 定点当たり報告数(山形県) >



< RSウイルス感染症について >

●RSウイルス感染症ってどんな病気？

RSウイルス感染症は、RSウイルスに感染することによって起こる呼吸器感染症です。2歳までにほぼ全ての人が感染し、生涯で何度も感染を繰り返すと言われていています。

RSウイルスに感染すると、咳や発熱、鼻水などの風邪のような症状が数日続きます。潜伏期間は、約4～6日です。

多くの場合軽い症状で済みますが、まれに細気管支炎や肺炎を併発して、症状が重くなる場合もあります。特に初めて感染した場合は症状が重くなりやすく、新生児や生後数ヶ月以内の乳児は注意が必要です。

●予防するにはどうすればいい？

感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染、ウイルスがついている物を介しての接触感染があります。予防法としては、手洗いの励行、マスクの着用、ウイルスの付いている物の消毒が有効です。



※RSウイルス感染症に関する情報は、下記のアドレスから参照できます。

©RSウイルス感染症に関するQ&A(厚生労働省HP)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html